

備北地区・地域フォーミュラリ薬剤 数量集計での各病院コメント

令和 7 年 6月分

ARB	各病院コメント
三次中央	推奨薬、オプション薬ともに減少していました。
三次地区医療センター	オルメサルタン減少、アジルサルタン大きく減少、カンデサルタンは増加。 推奨薬の比率はやや低下です。3月頃より総数の低い状態が続いています。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	アジルサルタン、オルメサルタンの処方が多くテルミサルタン、ロサルタンは減少傾向です。

PPI, P-CAB	各病院コメント
三次中央	推奨薬は横ばい、オプション薬(タケキャブ錠10mg・20mg)は減少していました。
三次地区医療センター	推奨薬は3剤とも減少。ポノプラザンは先月に続き数量が多く、 推奨薬の比率は先月よりも低下しました。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	ラベプラゾール、エソメプラゾールの処方数は横ばい。 ランソプラゾール、ポノプラザンが減少傾向。

スタチン	各病院コメント
三次中央	推奨薬、オプション薬ともに横ばいでした。
三次地区医療センター	ロスバスタチン・アトルバスタチン共に3割程度減少。プラバスタチンは大きく増加、 推奨薬の比率は先月よりも低下ですが、高い状態は保っています。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	ロスバスタチンが増加、アトルバスタチン、プラバスタチンは減少傾向

$\alpha$ -GI	各病院コメント
三次中央	ミグリトール錠の処方量は横ばいでした。
三次地区医療センター	ミグリトール半減、ボグリボースは変動なしです。
庄原赤十字病院	ボグリボース0.2mgの使用が開始された
西城市民病院	ボグリボースは減少、ミグリトールは横ばい

抗ヒ薬	各病院コメント
三次中央	月によって増減の幅はありますが、横ばいでした。
三次地区医療センター	オロパタジン・レボセチリジンは先月に続き低い数値で季節変動の影響とされます。 フェキソフェナジンは最も処方量が多いが季節的変動はあまり見られないようです。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	フェキソフェナジンの処方割合が多く、レボセチリジンがその半量、オロパタジンがその半量でした。

消炎鎮痛薬	各病院コメント
三次中央	月によって増減の幅はありますが、横ばいでした。
三次地区医療センター	アセトアミノフェン・セレコキシブ大きく減少、ロキソプロフェンは増加しています。 月毎の変動が大きく傾向は不明です。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	アセトアミノフェンが大幅に増加、ロキソプロフェン、セレコキシブは横ばいでした。

歯口腔術後抗菌薬	各病院コメント
三次中央	全体的に推奨薬(アモキシシリン)、オプション薬(クラリスロマイシン) ともに増加していました。
三次地区医療センター	該当処方なし
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	クラリスロマイシンは大幅に減少

ビスホスネート製剤	各病院コメント

三次中央	引き続き、当院はミノドロン酸(オプション薬)の処方量が多い状況です。
三次地区医療センター	アレンドロン減少し、ミノドロンが増加です。
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	リセドロン酸Naのみの採用でほぼ変動なしです。

ヘルペス薬	各病院コメント
三次中央	引き続き、処方量は減少していました。
三次地区医療センター	処方1例のみあり。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	ファミシクロビルのみ採用で前月より減少しています。

Ca拮抗薬	各病院コメント
三次中央	5月分の処方量に関しては、推奨薬、オプション薬ともに減少していました。
三次地区医療センター	アムロジピン・ベニジピンは減少傾向、シルニジピン増加、ニフェジピンは増加傾向です。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	アムロジピンの処方割合が最も多く、ニフェジピン、ベニジピンがその半量でした。

グリニド系糖尿病薬	各病院コメント
三次中央	圧倒的にレバグリニド錠の処方量の方が多いです。
三次地区医療センター	レバグリニドが増加、ミチグリニドは先発から後発に変更しました。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	ミチグリニドは横ばい

多価不飽和脂肪酸製剤	各病院コメント
三次中央	引き続き、イコサペント酸エチル900mgの処方量は低下していました。
三次地区医療センター	イコサペント酸大きく減少。処方数が少ないため、傾向は不明です。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	イコサペント酸エチルはわずかに減少

尿酸生成抑制薬	各病院コメント
三次中央	引き続き、全ての品目に対して処方量が減少していました。
三次地区医療センター	アロプリノール・トピロキソスタットは処方なし。フェブキソスタットは減少(20mg錠の変動は小さいが、10mg錠は変動が大きい)。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	フェブキソ(20)のみの採用で横ばいです。